名向小学校　　令和５年度　重点１

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）		「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図り、確かな学力の向上につなげる。
重点に係る現状 設定理由		指導と評価の一体化を意識することで、児童主体の授業が増えてきている。さらに、児童に育てたい資質・能力を明確にし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、ICT機器の活用等により、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、確かな学力の向上につなげていく。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	Ａ～Ｄの４段階で評定したアンケートでは、９割の教員がＡ及びＢ評価を選択してる。学校研究の柱に「資質能力の育成」を明確に位置付けたこともあり、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していこうとする意欲がより生まれてきている。ICT機器の活用に関しては、必要に応じて使用するのが当たり前の環境が整い、多くの教員が積極的に活用している。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてＡ及びＢの合計が９割を越え、今年度は98.4％（Ａ評定は76.4％）に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただけている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	指導と評価の一体化に関して適宜情報発信し、教職員の意識改革を図るとともに、年間を通して日常的に管理職が授業を参観し指導助言に努めてきた。また、全教員が研究授業を行ったり、講師や指導主事を招聘しての研究会を行ったりするなど、研究推進委員会を中心に組織的に授業改善を図ることができた。また、昨年度に引き続き公開研修会を開催し、三浦市内他校の教員のみならず、横須賀市にも幅を拡げ、多くの教員を招いてご意見をいただくことができた。多面的・多角的な意見をうかがうことで、研究の質を高めることができた。 また、朝学習として週に２回タブレットを活用してＡＩドリル（国語と算数）に継続的に取り組ませた。個に応じて課題が選定できる機能を活用したり、共通のワークをアップロードして取り組ませたりした。今後も、個別最適化な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて実践を積んでいく。
学校関係者評価結果	子どもたちの学びに向かう姿勢が良好なのは、日頃の先生方の努力の成果だと思う。学力向上には家庭学習も重要だが、保護者の負担感も気になる。宿題などで困っていたらすぐに教師に聞ける環境を整えてほしい。また、家庭学習でも努力した結果「できた、わかった。」という達成感が大切だと考える。
最終改善方策	児童に育てたい資質能力を明確にした上で、「主体的で深い学び」の視点から授業改善を図る。そのための方策として、全教員が公開授業を実施したり、外部講師の活用を継続したりすることで、教師個々の力量を高める。さらに、成果があがっているICT教育を深化させ、個別最適化な学びと協働的な学びを一体的に充実させていく。また、家庭学習の充実にも目を向け、具体的な方策を探っていく。

名向小学校　　令和５年度　重点２

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	○学年･学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）		人とのかかわりの中で、人権尊重の精神を涵養するとともに豊かな道徳性を養う。
重点に係る現状 設定理由		基本的に相手を思いやれる優しい児童が多い。人とのかかわりの中で「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚や相手の立場や考え方を想像し理解しようとするエンパシーな態度を養うことにより、さらに思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	Ａ～Ｄの４段階で評定したアンケートでは、Ａ評価及びＢ評価が大半を占めた。コロナ禍が落ち着きを見せる中で、感染症を理由にしての人権侵害は見られない。 ＳＮＳやオンラインゲーム等でのトラブルを未然に防ぐために研修会を開催するなど、時代に対応してより一層の人権感覚が必要だという認識は一致している。さらに、いじめの未然防止や早期対応について意識が高まってきているので、より実践的な指導が期待される。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてＡ及びＢの合計が９割を越え、今年度は９８％（Ａ評定は７２％）に達した。また、各学級の児童の様子に関して「ルールを守り協力している」９９％（Ａ評定は７６％）「楽しそうに登校している」が９８％（Ａ評定は６９％）という結果だった。経年変化をみても、高水準を維持している。
自己評価結果 （見解と改善方策）	昨年度に引き続き、エンパシー（他者の感情や経験などを理解する能力・共感力）に価値を置いた「コミュニケーション能力」を子どもたちに育てたい資質・能力として掲げ、すべての教育活動において重点として位置づけた。仲間と協働して何かを成し遂げる経験を積み重ねることで自己肯定感を高め、他者を尊重する思いやりの心を育むことに尽力した。学校行事や年度末の学習発表会などにおいて、仲間と協働する喜びを味わい、成功体験の中で自尊感情が高まっている姿が見られた。児童アンケートの結果からも、児童が「思いやりをもって他者と接することの価値」について、理解していることがわかる。人権教育の充実が求められる中で、教職員がより強く意識して取り組んだことで、一定の成果を上げたと考えている。
学校関係者評価結果	本校の伝統として、思いやりのあるやさしい子が育っているのがとても良い。登下校の様子を見ていても、高学年が良く低学年の面倒を見ている。挨拶ができているのも素晴らしい。このまま、大切にしてほしい。いじめに関しては、ネットトラブルなどへの対応をより丁寧に実施してほしい。
最終改善方策	コミュニケーション能力を発揮し、仲間と協働して課題解決するなど、自己肯定感を高める活動を継続して推進する。また、「思いやり」を道徳教育の重点とし、教育活動全体を通して育成を図る。組織的な指導力、対応力を向上させるため、学年ごとに関係職員を集め、情報共有や課題確認する場を定期的に開催する。小規模校ならではの強みを生かし、全教職員で全校一人ひとりを育てるという意識を大切にする。心の悩みや家庭の課題に対しては、ＳＣやＳＳＷと連携し、必要に応じて医療や福祉、警察といった外部機関とも連携する。いじめ未然防止に努め、人権感覚を大切にした児童指導を充実させる。

名向小学校

令和５年度　重点３

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	○地域･家庭･学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価規準）		「地域教育力」の活用を図り、豊かな教育活動を推進する。
重点に係る現状 設定理由		栽培活動や海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動が展開されている。今年度は、豊かな体験活動で終わるのではなく、さらに児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組める教育活動を推進していく。また、学校の状況や本校の教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。

評価資料	評　　価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	Ａ～Ｄの４段階で評定したアンケートで、多くの教員がＡ評価及びＢ評価を選択している。本校の特色ある教育活動が定着してきているので、さらに学びの質の向上を追求していきたい。教職員は保護者に寄り添いながら丁寧に関わり、信頼関係の構築に日々努めている様子が見られる。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてＡ及びＢの合計が９割を越え、今年度は９５％（Ａ評定は６８％）であった。また、海洋教育など学校の特色を生かした活動を問う設問では、９８％（Ａ評定は８５％）という高い評価をいただいた。自由記述欄には、地域を生かした教育や体験活動が充実しているので今後も継続して欲しいとの声が寄せられている。
自己評価結果 （見解と改善方策）	本校の特色である海洋教育や栽培活動については、地域や保護者の協力を得ながら充実した活動を行うことができた。諸磯藻場保全活動団体等の協力の下、釣り体験やタッチプール体験、磯観察を現地で実施できた事、また新たにアオリイカの産卵床づくりを体験できた事は、さらに活動が広がり有意義だった。また、各真珠養殖体験に、多くの保護者が参加できた事も、体験活動の意義をご理解いただくうえで有効だった。これらの体験活動を探究的な学びとつなげられるようにさらに工夫していく。 運動会や学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を提供できた事は、家庭・地域と連携を図るうえで効果的だった。
学校関係者評価結果	名向小学区には、海・山・人など地域資源が贅沢にある。学校に協力したいと思っている人はまだまだいる。今後も継続的に、充実した教育活動を展開して欲しい。また、地域の行事に子どもたちがさらに積極的に参加できるように地域と連携して推進していただきたい。
最終改善方策	地域の教育資源を生かした教育活動を継続して推進していく。体験学習にとどまることなく、探究型の学習を追求し、積極的に地域に出て、そこで生活する人々と交流を深める。総合的な学習の時間等の学習成果を発表する学習発表会を年間計画に位置付け、見通しをもって取り組みを推進していく。学校行事などを公開し、地域・保護者へ学校の取り組みを積極的に発信していく。